

はじめに

本棚を見ればその人の人となりがわかると言われたのは、いつのことだったでしょう。今ではスマートフォンに代表されるインターネット端末にその地位を奪われた感さえあります。しかし古くはメソポタミアの粘土板文書に端を発し、エジプトのパピルスを経て綿々と綴り続けられてきた書物の堆積知には、インターネットが逆立ちしても追いつけない凄みがあることもまた事実です。

“工学の曙文庫”というライブラリーがあります。金沢工業大学が“工学”の観点から、科学的発見、技術的発明の原典初版を収集した稀覯なライブラリーです。收藏されているのは、グーテンベルクによって印刷技術が発明された15世紀以降の書物。古くはコペルニクスの『天球の回転について』からニュートンの『プリンキピア』、近年のものでは『スペースシャトル・チャレンジャー号の事故に関する調査委員会報告』までが収められています。このライブラリーはいわば、工学を志した全人類の叡智が静かに眠っている「知の森」なのです。

[世界を変えた書物]展、この展覧会は知の森で静かにその時を待っていた工学の叡智を、専門家のための資料という枠組みを超えて、広く一般に紹介することを目的に企画されました。専門家ではない一般の来場者が書物と出逢い、興味を抱きかつ理解しやすくするための展示の根幹を担ったのが金沢工業大学の大学院生・学部生たちです。膨大な蔵書の中から展示する書物を厳選、それらの書物同士の関係性がひと目でわかるような空間デザインを、担当教授とともに練り上げていきました。

エントランスを遮るように聳える「知の壁」で書物の歴史を概観した来場者は、「知の扉」を抜け、その先に広がる圧倒的な「知の森」へと足を踏み入れることとなります。タンジブルなタイポグラフィや図案の美しさだけでも、一見の価値がある展示です。そして「知の森」を知の連鎖に沿うように旅した後は、堆積知をイメージした木と葉のインスタレーション「知の地層」が、過去から未来へと伸びる叡智の連続性を感じさせてくれることでしょう。この展覧会が、書物が湛える豊かな叡智への、出逢いと気づきのきっかけとなれば幸いです。

実施概要

タイトル： [世界を変えた書物] 展 ー人類の知性を迎える旅ー

会期 : 2012年4月27日(金)～5月19日(土)

午前10時～午後6時<金、土曜日は午後8時まで>

会場 : 金沢21世紀美術館1F「市民ギャラリーA」

入場無料

2012年の今、書物はその地位をインターネットやe-Bookに取って代わられたような印象があります。しかし、それはただパッケージが変わったに過ぎません。それらの中に語られ書かれてきた物語、人類の叡智こそが重要なのです。この[世界を変えた書物]展は、私たちの生活を豊かにしてきた科学技術、工学系の叡智、それが最初に発見され語られた原典、稀覯な初版本を金沢工業大学が蒐集した“工学の曙文庫”をわかりやすく展示公開するものです。人類の叡智を未曾有にたたえる「知の森」を迎える旅が、出逢いと気づきの場となれば幸いです。

主催 : 金沢工業大学、北國新聞社

後援 : 石川県教育委員会、金沢市教育委員会、北陸放送、テレビ金沢、
金沢ケーブルテレビネット

プロデュース : 立川直樹

監修 : 金沢工業大学ライブラリーセンター館長・教授 竺覚暁

会場構成 : 金沢工業大学環境・建築学部 宮下智裕研究室

+ 金沢工業大学教授 水野一郎 + 金沢工業大学准教授 宮下智裕

制作 : 立川事務所 + ハクション

お問い合わせ : 金沢工業大学企画部 電話 076-246-4784

メール koho@kanazawa-it.ac.jp

石川県野々市市扇が丘7-1(〒921-8501)

【展示のご説明】

一般公開に先駆けて、プレスご担当者様に展示内容のご説明をさせていただきます。

ぜひご高覧方々、ご来場賜りますようご案内申し上げます。

日時 : 2012年4月26日(木)午後2時～4時 (随時ご案内いたします)

展示内容

本展の展示プランは、開催するにあたり、金沢工業大学建築系 大学院生・学部生が、1年にわたり考案し構築したものです。会場全体を「知の森」ととらえ、書物の持つ魅力を様々な角度からご紹介します。サイエンティストたちが歩んだ知性の道を是非一緒に辿ってみてください。きっと新しい発見と感動に巡りあえます。

「知の壁」THE WALL OF WISDOM

旅のはじまりは、圧倒的な「書物の壁」との出会いからはじまります。

現代の電子図書からさかのぼり、中世のグーテンベルグによる印刷機の発明まで、書物の歴史を辿ります。



「知の壁」イメージ

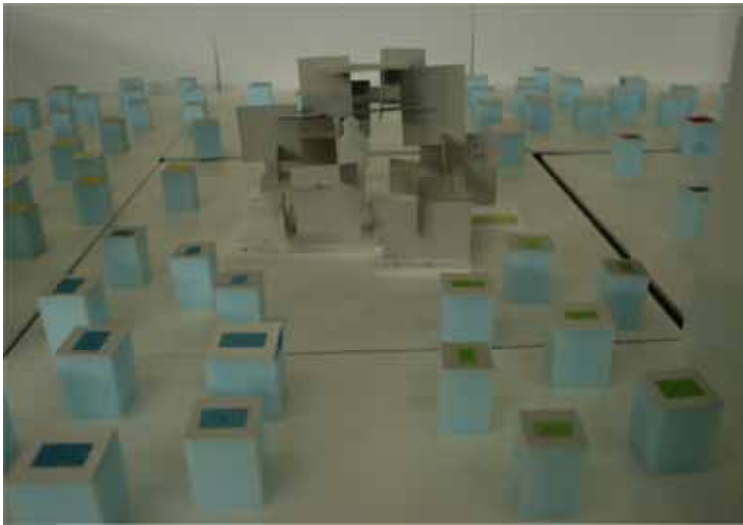
「知の扉」THE GATE OF WISDOM

[知の壁]をくぐり抜けると、そこは、書物の世界への出発ゲート。旅立ちの前のウォーミングアップ！

レオナルド・ダ・ヴィンチによる道路の測量などに使われた大きな歯車付の「ものさし」など、書物のエスキースから再現された彫刻。さらには、1937年パリ万博の「電気館」のために108名のサイエンティストたちを描いたというラウル・デュフィによる「電気」の精が壁面いっぱいに現れます。

「知の森」THE FOREST OF WISDOM

オリジナル原書は、それ自体が、そのマティエール、テクスチュアなど作品(オブジェ)としての魅力に溢れています。ここでは参加者は森の中のエクスペローラー(「知の探検者」となります。科学的発見、技術的発明は常に先人の成果に関連しながら、次の新たな「ひらめき」や「発見」へと、「知の連鎖」を繰り返し、人類の文化を前進させてきました。「知の森」のネットワーク、科学の結びつきを体感するとともに、原書の魅力を感じ取ってみてください。



「知の森」イメージ図

「知の地層」THE STRATA OF WISDOM

夏、太陽と大地からの養分をたっぷり蓄えた木の葉は、秋になるとそれぞれの記憶を新たに大地に堆積していきます。書物の中からその「言の葉」が、新しい記憶、知性として、過去から現代、さらには未来、そして次世代のために蓄積していきます。そんな「知の循環」を金沢工業大学建築系 宮下研究室 学生が表現した展示が、「知の地層」。また壁には、先人から現代のサイエンティストまで、肖像画がずらりと並びます。

* 展示内容は都合により多少変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。

出展書籍(一例)

イシドール (570-636頃) . 「語源学」1472年, 初版 .

科学及び技術用語を含む術語を解説した、一種の百科全書。イシドールは6世紀の人で、この書物を書くことによって、失われて行く古代の科学技術知識を保存し中世に伝える役目を果たした。数学、天文学、解剖学、地学、鉱物学、工学、建築学、農学、気象学などの古代科学技術の貴重な概説を含んでいる。

レギオモンタヌス(1436-1476)訳, プトレマイオス(90-168頃活動) . 「アルマゲスト」ヴェネツィア, 1496年, 初版.

プトレマイオスはエジプト、アレクサンドリアの天文学者・地理学者。彼が確立した天動説は、コペルニクスが地動説を発表するまで1300年もの間信じられてきた。ドイツの天文学者レギオモンタヌスは熱烈な信奉者で、プトレマイオスの著作『アルマゲスト』を要約してラテン語に訳し注釈を加えて出版した。

ニコラス・コペルニクス (1473-1543) . 「天球の回転について」ニュールンベルク, 1543年, 初版

「地動説」という太陽系モデルを確立した科学技術上最大の書物。プトレマイオス「天動説」が実際の観測結果と合わなくなり、コペルニクスは古代ギリシアのアリスタルコスの唱えた太陽中心説に着目したのである。この後、ケプラーが惑星の楕円軌道を、ニュートンが引力の法則を発見して、その正しさが証明された。

アイザック・ニュートン (1642-1727) . 「自然哲学の数学的原理(プリンキピア)」ロンドン, 1687年, 初版.

ニュートンは、本書で新しい宇宙観、宇宙の新しい「パラダイム」を作り上げた。地動説の力学的証明である。第一巻では有名なニュートンの三法則、慣性の法則、運動の法則、作用・反作用の法則を提示。第二巻では流体力学を論じ、第三巻はニュートン最大の業績である万有引力論が発表されている。

ヒエロニムス・ブルンシュヴィヒ (1450-1512頃) . 「真正蒸留法」シュトラスブル, 1500年, 初版.

ブルンシュヴィヒは、シュトラスブル生まれの外科医。本書では様々な病気やけがの薬について、薬草からの蒸留抽出法を美しい挿絵を用いて詳述している。本書は薬剤製造の最も権威あるハンドブックとして16世紀まで重用された。巻末には貧しい人々のために、安価に入手できる薬のリストも。

ロバート・フック (1635-1703) . 「微細物誌」ロンドン, 1665年, 初版.

「フックの法則」で有名なフックは、17世紀最大の実験科学者であり、さまざまな重要な科学器具を考案、改良、製作した。本書は、自身が考案、製作した複合顕微鏡を用いて種々の観察を行い、その結果をまとめたもの。植物の細胞を発見、セル (cell) と名付けた。フック自身の手になるエッチングは精密で迫りに満ちている。

金沢工業大学ライブラリーセンター

『工学の曙文庫(The Dawn of Science and Technology)』について

『工学の曙文庫』は金沢工業大学ライブラリーセンター(KIT-LC)に設置された科学的発見や技術的発明が最初に発表された初版本を体系的に収集した稀覯書コレクションで、現在 2000 余冊を所蔵しています。金沢工業大学は工学の教育・研究を行っているわけですが、工学は有益で便利なものを産み出して私たちの生活を豊かにしてくれる反面、その目的や使い方を誤れば大きな災厄をもたらすことは歴史が示しています。工学の教育・研究においては常にこうした危険を認識していなければなりません。その認識のためには科学や工学の発展の歴史的展開の把握が不可欠です。『工学の曙文庫』はまさにこのために構築されたものであり、金沢工業大学の科学技術史や科学技術倫理の教育・研究に活用されています。

KIT-LC は大学に於ける学生生活の中心であるべく、すなわちまさに「大学の心臓」として機能すべく、全く新しい大学図書館のかたちを取って 1982 年に誕生しました。設立準備委員会には国立国会図書館副館長(当時)酒井悌氏、米国図書館振興財団顧問(当時)フォスター・モーハート氏、マサチューセッツ工科大学図書館長(当時)ジェイ・ラッカー氏などが加わっており、当時の最先端のライブラリー・サイエンスの成果が応用されたのです。例えば、KIT-LC は全ての図書館業務をコンピュータによって行った我が国最初のフル・コンピュータライズド・ライブラリー、「カードレス・ライブラリー」ですし、当時から「電子化情報」と称してデータベースやデジタル化された情報の収集と利用者に対する提供も行っていました。こうした新しい図書館像を模索し実践しつつも、しかし図書館の本質は「書物」にある、との思いで「書物」中の「書物」である「稀覯書」のコレクションを図書館の中心に置いているのです。

KIT-LC にはまた、学生生活に潤いと寛ぎを与えるものとして、学生が自由に聴けるポピュラー・ミュージックのコレクションが所蔵されています。ポピュラー・ミュージック・コレクション(PMC)と名付けられたこの 20 万枚にのぼる世界の LP レコード名盤は、音楽の音響振動が体感できるボディソニックチェアで自由に聴くことができます。常時、1 万 5 千枚が手に取れるようになっていますが、その意匠を凝らしたレコード・ジャケットのデザインもまた尽きない魅力があります。PMC は一般の方も利用が可能ですのでお越しになって下さい。

金沢工業大学ライブラリーセンター館長・教授 竺 覚暁



ライブラリーセンター



工学の曙文庫